

## 談 話 室

### 第 27 回日本眼科学会専門医認定試験を終えて

第 27 回日本眼科学会専門医試験は平成 27 年 6 月 12 日(金)、13 日(土)の 2 日間にわたり、昨年と同様、東京の渋谷駅前のフォーラム 8 で行われました。例年と同様に、今回の認定試験の概略とその結果、印象などについて報告させていただきます。

#### 1. 日 程

平成 27 年 6 月 12 日(金) 筆記試験(フォーラム 8)

一般問題：午前 9 時 30 分から 2 時間

臨床実地問題(視覚素材付き問題)：午後 1 時から 2 時間

平成 27 年 6 月 13 日(土) 口頭試問(フォーラム 8)

口頭試問：午前 9 時より受験者 1 名ごとに同じ問題を用いて個別に行いました。

#### 2. 受験者数

受験申請の受理者数は 295 名、欠席者 11 名で最終的に受験者数 284 名(男性 167 名、女性 117 名)でした。内訳は初回受験者 202 名(71.1%、男性 111 名、女性 91 名)、再受験者 82 名(28.9%、男性 56 名、女性 26 名)、勤務地の地域別には北海道 13 名、東北 11 名、関東甲信越 54 名、東京 61 名、北陸 7 名、中部東海 29 名、近畿 56 名、中国 14 名、四国 8 名、九州 31 名でした。昨年に比べて、受験者数は少し減少、初回受験者が若干減少し、再受験者が若干増加しました(昨年は初回 76.6% と再受験 23.4%)。

#### 3. 問題数、平均点、合否判定、合格率

筆記試験問題は例年と同じく一般問題 100 題、臨床実地問題(視覚素材付き問題)50 題の合計 150 題、KV(key validation)委員会を開催し、正答率と識別指数を参考にしながら問題の妥当性を検討し、5 問を採点から除外しました。昨年と同様に一般問題、臨床実地問題をそれぞれ 100 点満点として、両者の合計を加算して 200 点満点として採点しました。

採点結果を過去 3 年間のものと並べて表 1 に示します。

口頭試問については、例年通り試問前日に試問委員で実施手順の確認を行いました。試問当日早朝に実際の試問の提示を行い、問題内容、試問方法、合否判定基準について全員で検討を行いました。それぞれの口頭試問は 2 名の委員で 1 つの班を作り、班ごとに会場を用いて、一人につき原則 15 分間を使って試問を行いました。班ごとに整然と準備された様子を図 1 に示します。試問終了後に 2 名の委員が合議のうえ、不合

表 1 筆記試験成績

回		一般問題 (100 点満点)	臨床実地問題 (100 点満点)	総合 (200 点満点)
24	最高点	95.0	90.0	181.0
	最低点	35.0	34.0	72.0
	平均点	68.4	66.9	135.3
25	最高点	89.9	90.0	175.9
	最低点	30.3	34.0	68.3
	平均点	65.5	64.2	129.7
26	最高点	89.8	96.0	180.7
	最低点	25.5	36.0	66.6
	平均点	62.3	73.7	136.0
27	最高点	84.4	93.9	174.1
	最低点	25.0	42.9	79.4
	平均点	59.2	71.9	131.1



図 1 口頭試問の準備の様子。

格判定検討対象者の選別を行いました。合否判定は、試問翌日の 6 月 14 日(日)に、各班の班長と試験委員会委員長、副委員長による判定会議を開催して行いました。口頭試問の問題の評価、各班の受験者の状況について報告を受け、それをもとに合否判定の基準の再確認を行いました。その後、口頭試問の不合格判定検討対象者について、班長の報告を受け、全員で検討し、合否判定を行いました。最終的な合格条件は筆記試験が 200 点満点の 120 点以上、口頭試問で合格の両者を満たすことにしました。

今回は合格者 209 名、合格率 73.6% で、不合格者の内訳は、筆記試験不合格者 73 名、口頭試問不合格者 14 名、重複を除くと不合格者は 75 名でした。

表 2 最近 6 年間の初回受験・再受験別合格率

回	年	初回受験者	再受験者	総合合格率
22	2010	74.3%	23.2%	60.8%
23	2011	81.0%	56.9%	73.3%
24	2012	87.8%	56.9%	79.6%
25	2013	83.7%	28.8%	69.8%
26	2014	86.4%	37.8%	75.0%
27	2015	86.6%	41.5%	73.6%

#### 4. 初回受験者と再受験者

最近 6 年間の初回受験者、再受験者と合格率を表 2 に示します。

過去 4 年間は初回受験者の合格率が 8 割を超えていますが、今年も 86.6% と高い合格率でした。一方、再受験者の合格率は 41.5% で、最近 3 年間では最も良かったものの初回受験者と比較すると半分以下の結果でした。

#### 5. 筆記試験問題

筆記試験問題の作成は、82 名の出題委員に依頼、眼科専門医認定試験出題基準に準拠して各専門分野別に分け、一人あたり一般問題 5 題以上、臨床実地問題 3 題以上の作成をお願いしました。今回は過去にストックされた問題は使用せず、合計 631 題から選定を行いました。延べ 6 回にわたる選定とブラッシュアップが行われ、150 題が作成されました。この間、担当委員の先生方には毎回 2 日間、会場に軟禁状態で作業を繰り返していただきました。お忙しいなか、貴重な時間を割いてくださった先生方にこの場を借りて深く御礼を申し上げます。

#### 6. 口頭試問

口頭試問は 11 名の試験委員に 11 月に各人 2 題を目途に出題を依頼し、提出していただいた 21 題の問題をもとに後藤 浩試験委員会副委員長が 2 題作成し、委員長とともに最終案をまとめました。

問題 1 は Bielschowsky 頭部傾斜試験の写真を提示し、上下斜視の基礎知識、診断法と鑑別診断を問う問題。問題 2 は広角倒像型レンズの写真を提示し、基礎知識と、網膜光凝固治療の手技に関する問題でした。ともに実際に眼科臨床を行ってれば必ず回答できるものと考えて出題しましたが、大多数の受験者が適切に回答できていました。良い問題だったと思いますが、筆記試験で問う内容に近いのではないかという意見も出ました。

#### 7. 今後の試験に向けて

平成 26 年 7 月 6 日(日)の午後に、若手の試験委員を対象にして、試験問題作成ワークショップを開催しました。お忙しい中、23 名の先生にご参加いただきま

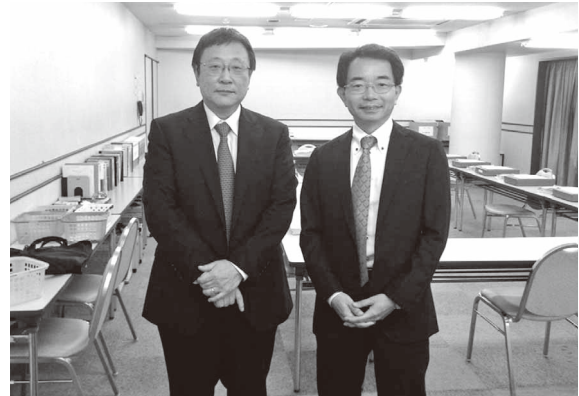


図 2 後藤 浩試験委員会副委員長と試験会場の最終チェック。

した。第 20 回、第 21 回試験委員会委員長の松橋正和先生に「問題作成における形式」、後藤試験委員会副委員長に「問題作成上の注意事項」、第 22 回、第 23 回試験委員会委員長の三村 治先生に「問題作成の内容について」と題してそれぞれ講演していただき、委員長が「採用される試験問題の作り方」と題して講演しました。この 15 年を振り返ってみると、最初に提出される問題はかなり良くなったのではないかと思います。

今回の筆記試験の問題の選択にあたっては、出題基準をもとに、できるだけ偏りがないように配慮しましたが、領域によっては良問が得られにくいことがあって、作問に偏りがあったかもしれません。また、口頭試問の作成方法、口頭試問のあり方、合否の判定方法など、さらに検討を加えていく課題があると考えます。試験委員の間でも眼科専門医試験において何をどう問うべきか、常に議論になっていますし、合否の判定方法については、判定委員会でも白熱した議論になりました。

#### 8. おわりに

第 13 回から第 23 回まで試験委員、第 24 回と第 25 回は村上 晶委員長のもとで副委員長を 2 年間、そして第 26 回・今回は委員長を 2 年間と、試験委員を合計 15 年間務めさせていただきました。今回の試験も無事に終了し、幸いなことに最も信頼できる先生方に引き継ぐことができたので、ほっとしているのが正直なところです(図 2)。昨年 7 月から試験までほぼ 1 年の長きにわたり、ご尽力賜ったすべての先生方と、日本眼科学会事務局のスタッフに、この場をお借りして、心から御礼申し上げます。

日本眼科学会専門医制度委員会  
試験委員会委員長 堀田 喜裕